

平成23年度教育実践研究実施状況(大学実施分)

	研究題目	実施期間	研究組織・代表者	構成メンバー(所属)	研究内容	備考
環境教育研究センター	「環境のための地球規模の学習及び観測プログラム(グローバル)推進事業」(文科省委託事業)	平成24年4月～平成25年3月	環境教育研究センター 吉富 友恭	吉富友恭(環境教育研究センター、グローバル日本中央センター事務局長) 大井みさほ(グローバル日本前カントリーコーディネーター) 山下脩二(グローバル日本前カントリーコーディネーター) 木俣美樹男(環境教育研究センター) 樋口利彦(環境教育研究センター) 原子栄一郎(環境教育研究センター) 小川深(自然科学系広域自然科学講座) 澤田康徳(人文社会科学系人文科学講座)	GLOBE計画に参加する学校及び諸外国との連絡調整、GLOBE計画に参加する学校に対する指導・助言、その他本事業を推進するために必要な調査研究を行う。	
	小金井・国分寺・小平「環境教育実践フォーラム」	平成25年2月15日	環境教育研究センター 樋口 利彦	木俣美樹男(環境教育研究センター) 樋口利彦(環境教育研究センター) 原子栄一郎(環境教育研究センター) 吉富友恭(環境教育研究センター)	近隣自治体の小学校や中学校、および地域で実施される環境教育実践を把握し、学校と地域連携の環境教育実践を分析することで、学校における環境教育の理論構築を行う。	
	環境教育リーダー養成講座	平成24年7月～平成26年3月まで	環境教育研究センター 樋口 利彦	木俣美樹男(環境教育研究センター) 樋口利彦(環境教育研究センター) 原子栄一郎(環境教育研究センター) 吉富友恭(環境教育研究センター) 秦範子(本学大学院研究生) 神村祐(本学教務補佐員)	大学生の環境教育に関する実践的・運営的な能力の育成における留意点等を把握するために、具体的な環境教育実践を学生に企画運営させる教育実践を実施する	
総合教育学系(個人)	手縫い技能の習得における指導と学習効果に関する研究	平成23年4月～平成25年3月(予定)	研究代表者 鳴海多恵子のもと、家庭科教諭1名、本学学生2名で組織する。	鳴海多恵子(東京学芸大学生生活科学講座) 寶達佑美(杉並区立向陽中学校教諭) 吉田 由香(本学B類家庭科専攻4年生) 山本 夏帆(本学B類家庭科専攻4年生)	まつり縫いの学習において、より適切な理解と確実な定着を図るための教材開発を行い、その有効性の検証と指導方法を検討するとともに、布を用いたものづくり学習の意義の一つである手指の巧緻性の向上について、まつり縫いの繰り返し練習による効果を明らかにする。	
	発達障害のある児童・生徒の指導方法の研究・開発事業	平成24年度 4月1日から平成25年度 3月31日	東京都教育庁指導部特別支援学校教育指導課	小池敏英(東京学芸大学)	東京都教育委員会より委託を受け、発達障害のある児童・生徒を対象とした、通級指導教室における指導方法の研究に関して、開発を行った。	
	特別支援教育にかかわる調査研究委託	平成24年度 4月1日から平成25年度 3月31日	品川区教育委員会	小池敏英(東京学芸大学)	品川区より、委託を受け、読み書きに困難のある児童・生徒に対する総合的な支援策を検討するため、区立学校の児童・生徒に対して、実態調査を実施し、データの収集・分析を行った。	
	附属大泉小学校での国際理解教育における指導・評価項目の検討―項目の精選と児童の能力の変容から―	2012年(平成24年)4月～12月	学校心理専攻 梶井芳明	梶井芳明(学校心理専攻) 塙万里奈(A学校心理、学部4年生)	附属大泉小学校での国際理解教育における指導・評価項目を作成するとともに、質問紙と観察調査により、国際理解教育の単元における子どもたちの学びを指導・評価する際の、項目の信頼性及び妥当性を検討した。	
	児童の話すこと・聞くことの授業観ならびに能力の発達の変容の検討	2012年(平成24年)4月～12月	学校心理専攻 梶井芳明	梶井芳明(学校心理専攻) 新見拓馬(A学校心理、学部4年生)	都内公立小学校3年生、国語科の授業を対象に、質問紙と観察調査により、児童の「話したくなるような授業・聞きたくなるような授業」に関わる授業観、ならびに「話すこと・聞くこと」の能力の発達の変容を、縦断的に検討した。	
自然科学系(個人)	数理的能力の論理的理解と表現に関する育成を旨とした数学及び数学教育カリキュラムの開発	平成24年4月1日～平成25年3月31日	自然科学系数学講座・宮地 淳一	滝沢 清(数学分野) 竹内 伸子(数学分野) 安原 晃(数学分野) 山田 陽(数学分野) 谷川 政雄(数学分野) 伊藤 一郎(数学分野) 中村 光一(数学教育分野) 西村 圭一(数学教育分野)	教員養成課程における数学・数学教育カリキュラムの新しい構造化を旨として、初等・中等教員養成課程の学生の数理的資質の向上に焦点を絞り、その実現を旨ずカリキュラムの開発。	
	社会的文脈における数学的判断力の育成に関する総合的研究	平成22年4月～平成25年3月	西村圭一(研究代表・東京学芸大学)	長尾篤志(文部科学省初等中等教育局)、久保 良宏(北海道教育大学教育学部(旭川校))、青山 和裕(愛知教育大学教育学部)、山口 武志(鹿児島大学教育学部)、本田 千春(東京学芸大学附属国際中等教育学校)他12名	数学的判断力に関する枠組みを作成し、海外の先駆的な実践の現地調査等も行いながら考究し、教材開発及び実験授業を行った。また、小・中・高校生の数学的判断に関する調査を行い、その実態の一端を明らかにした。	

自然科学系（個人）	算数・数学科における「思考・判断・表現」の評価に関する研究	平成24年4月～平成26年3月（予定）	清水美憲（研究代表・筑波大学大学院）	西村圭一（東京学芸大学）、清野辰彦（山梨大学）、本田千春（東京学芸大学附属国際中等教育学校）、永山香織（東京学芸大学附属世田谷小学校）、栗田辰一郎（同左）、花園隼人（東京学芸大学附属高等学校）他7名	算数・数学科における「思考力・判断力・表現力」の育成とその評価という観点から、アメリカやイギリスの評価教材を分析するとともに、評価教材の開発に当たった。	
	中学校・高等学校における理系進路選択に関する研究	平成22年4月～平成25年3月	後藤顕一（研究代表・国立教育政策研究所）	西村圭一（東京学芸大学）、小倉康（埼玉大学）、鈴木和幸（電気通信大学）他20名	中・高校生が、各教科の学習にどの程度の意義や有用性を感じて進路を選択したり理系や文系を選択したりしているのか、また、学校内・外での様々な教育的活動がどの程度関係しているのか等に関して、質問紙による調査を行った。また、特徴的な結果が得られた学校について、その背景となる教育活動の実態を把握するために訪問調査を行った	
芸術・スポーツ科学系（個人）	「明治後期から昭和戦前期の師範学校における赤津隆助の図画指導の役割に関する研究」	平成23～25年度	増田金吾		図画教育家・赤津隆助は、図画指導を中心に据えつつも、「人間教育」としての幅広い教育実践を行い、多くの優れた教師を養成した。本研究では、師範学校における赤津の図画指導の役割を追究する。	科研による個人研究
	週末の身体活動増加が食後中性脂肪に及ぼす影響	2012年8月～2013年2月	健康・スポーツ科学講座宮下政司	高橋将記（早稲田大学）	脂質異常症の予防のための身体活動の重要性を実験室での基礎研究から応用研究での評価と発展させる研究	
	抗酸化飲料摂取が食後脂質代謝および酸化ストレスマーカーに及ぼす影響	2012年8月～継続中	健康・スポーツ科学講座宮下政司	和氣坂卓也（花王株式会社） 竹下尚男（花王株式会社） 刀禰寛（花王株式会社） 鈴木克彦（早稲田大学） 高橋将記（早稲田大学）	閉経後女性を対象とした抗酸化飲料摂取による動脈硬化症の予防に関する研究	
	器械運動アプリ開発及びその授業実践例	2012年～現在進行中	水島宏一		利便性の高いiPadを活用することで、効果的なICT活用の実技授業ができると考えた。そのためには、実技アプリ（器械運動）の開発及びそのアプリの効果の検証を行い、効果的な授業実践例を示す必要がある。本研究では、アプリ開発及びその検証実験を行い、新しい実技授業の基礎資料を得るものである。	器械運動アプリは、試作品ができている。また、そのアプリを活用しての授業実践も現在進行中である。
教育実践研究支援センター（個人）	教育実践の歴史と課題についての研究	2011年1月～2012年6月	大森直樹	大森直樹（教育実践研究支援センター）	教育実践の歴史と課題を整理し、研究結果を纏めて公表した。大森直樹「一人の人間もきりすてない学校」の条件とは」『世界』岩波書店、2012年6月、299～310頁	
	東日本大震災後の教職員配置について	2011年1月～2012年6月	大森直樹	大森直樹（教育実践研究支援センター）	東日本大震災後の教職員配置について検証を試み、研究結果を纏めて公表した。大森直樹「東日本大震災後の教員配置の検証」『季刊教育法』エイデル研究所、2012年6月、102～115頁	
	東日本大震災後の教育現場の課題について	2011年6月～2013年4月	大森直樹	大森直樹（教育実践研究支援センター）	東日本大震災後の教育現場の課題について研究を行い、研究結果の一部を纏めて公表した。大森直樹「被災地の資料と言葉からー東日本大震災後の教育現場の課題」『教育と文化』アドバンテージサーバー、2012年10月、56～69頁	
環境教育研究センター（個人）	雑穀類の起源と利用、環境文化と環境教育学、環境学習プログラムに関する研究	平成24年度	環境教育研究センター 木俣美樹男	木俣美樹男（環境教育研究センター）、研究室 学生・院生と卒業生ら	キビ・コラティ・コルネの栽培起源と調理法、奥多摩地域の生物文化多様性の調査などの基礎研究を基に、ELF環境学習研修会テキストを開発し、エコミュージアム日本村作りに活用している。	
	生物文化多様性に関するモジュール教材の開発研究	平成24年度	環境教育研究センター 木俣美樹男	橋真智子（地理学）、真山茂樹（生物学）、中西史（理科教育）、岩元明敏（生物学）	23年度の広域科学教科教育研究費を元に引き続きおこなっている。生物多様性と文化多様性をつないで、「野菜のいろいろ」、「種子とは何か」などのモジュール教材を開発する。	

環境教育研究センター（個人）	ホームガーデンによる生物文化多様性保全と家族食料安全保障	平成23年度～平成25年度	環境教育研究センター 木俣美樹男	木俣美樹男(環境教育研究センター)、研究室学生・院生と卒業生ら	ホームガーデンが日常生活および災害時に、いかに機能しているかを調査研究する。対象地域は、東京、山梨、長野、埼玉、岩手・宮城の三陸地域、パレスティナのナブルス市。	住友財団研究助成による
	山村の伝統的知識体系の再生と継承～エコミュージアム日本村・植物と人々の博物館プロジェクト	平成24年度	環境教育研究センター 木俣美樹男	卒業生、自然文化誌研究会、山梨県小菅村教育委員会	エコミュージアム日本村のコア博物館として、植物と人々の博物館の一般公開展示「東アジアの植物と非アルコール飲料」を整備する。	
	環境教育とその方法論、緑地保存と環境教育に関する研究	平成24年度	環境教育研究センター 樋口 利彦		緑地保全に関わる市民の主体性に関わる調査研究。	
	学校における環境教育とその方法論に関する研究	平成24年度	環境教育研究センター 樋口 利彦		特に三市の学校における環境教育実践を把握しながら、学習者にとって有効な環境教育方法を検討する。	
	環境教育学の研究	平成19年4月～(継続)	環境教育研究センター 原子 栄一郎		産業革命を契機とする、19世紀から20世紀の「産業化社会／大量生産・消費・廃棄型製造業社会」と一体になった近代教育(学)を批判的に反省し、「環境革命」を契機とする21世紀の「環境化社会／持続可能社会／定常型社会」と連関する「持続可能教育(sustainable education)(学)」について、原理的研究を行う。	
	河川環境とその展示教材に関する研究	平成24年4月～平成25年3月	環境教育研究センター 吉富 友恭		河川の生物に焦点を当て、それらと環境との関わりを探るための研究を行なうとともに、その成果を題材とした展示や教材の開発を進め、その活用について検討する。	
留学生センター（個人）	中上級日本語学習者のノートテイキングに関する研究ーパワーポイントを用いてー	2012年4月～2013年2月	許 夏玲		日本語の文法授業と作文授業でパワーポイントを用いて授業を行い、その間学習者に授業ノートを取らせた。学習者の読み、聞き、書きの技能及び産出能力を考察・分析した。また、授業中にICT(電子ブックなど)の活用にも心がけた。	